

連結

売上高

2兆1,772 億円
(前年同期比 +2.1%)



営業利益

1,169 億円
(前年同期比 △42.2%)



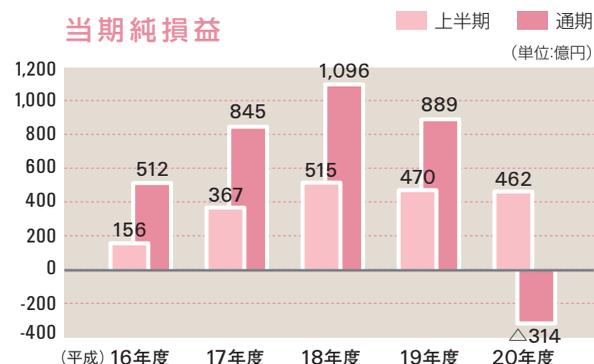
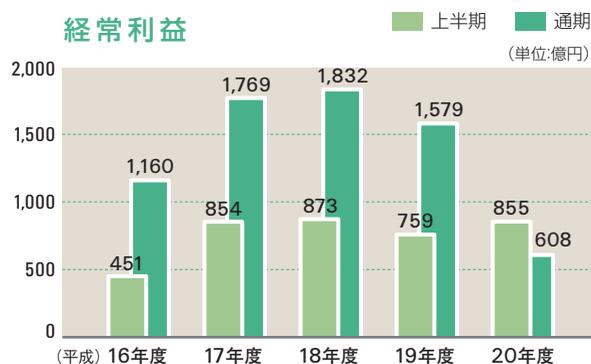
経常利益

608 億円
(前年同期比 △61.5%)



当期純損益

△314 億円
(前年同期比 -)



(表示金額は、単位未満の数字を切り捨てております。)

当期の概況

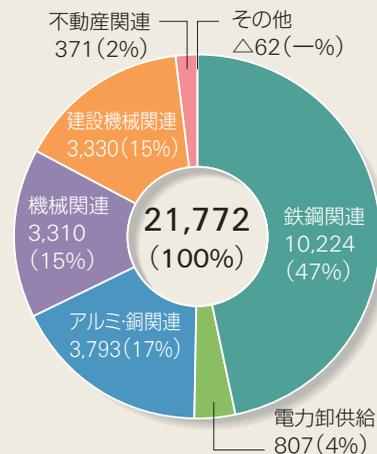
当期のわが国経済は、第2四半期まではエネルギー・原材料をはじめとする資源価格高などの影響により停滞し、第3四半期以降は、米国に端を発した金融危機が実体経済へ悪影響を及ぼし、景気は急速かつ大幅に悪化しました。また、海外においても、これまで成長を維持してきた中国や中東、ロシアなども含め、世界全域で景気は悪化しました。

このような環境のもと、当社グループにおいては、第2四半期までは景気停滞の影響が一部の事業で見られたものの、総じて堅調な需要を背景に、鉄鋼をはじめとする各事業で、原材料価格の上昇に対応し、販売価格への転嫁を進めました。しかしながら、第3四半期以降は、電力卸供給事業を除く各事業で需要が急激に減少し、これに伴い、鉄鋼関連事業の鋼材やアルミ・銅関連事業などにおいて、かつてない大幅な生産水準の低下を余儀なくされました。

これらを背景に、当期の連結業績は、売上高は前期並みの2兆1,772億円となりましたが、営業利益は前期に比べ854億円減益の1,169億円、経常利益は前期に比べ970

億円減益の608億円となりました。また、特別損失として投資有価証券評価損および一部の固定資産について減損損失を計上したことに加え、繰延税金資産の取崩しを実施したことなどから、税引き後の当期純損益は前期に比べ1,203億円減益の314億円の損失となりました。

事業別売上高
(平成20年度)
(単位:億円)



(注)「その他」には「電子材料・その他の事業」の売上高551億円と事業間の内部売上高等の消去額△614億円が含まれておりますので、上記円グラフ「その他」の金額は△62億円となっております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)

鉄鋼関連事業

10,224 億円
(前年同期比 +10.7%)



上半期は堅調も、
下半期に入り需要は
急減しました。

- 鋼材需要は、上半期までは堅調も、下半期に入り、造船を除く分野で急激に減少し、鋼材出荷量は前期を下回る。
- 販売単価は、原材料価格の大幅な値上りに対応し、製品価格への転嫁を進め、前期を上回る。
- チタン製品、溶接材料の需要も、上半期は堅調も、下半期に入り減少。

- 鋳鍛鋼品は、造船向けを中心に旺盛な需要が継続。
- 営業利益は前年同期比141億円減益の777億円。



神戸製鉄所



電力卸供給事業

807 億円
(前年同期比 +12.3%)



安定操業を継続しています。

- 電力単価に転嫁される石炭価格の上昇により、売上高は増加。
- 法人税法の改正に伴い、機械装置の耐用年数の変更を行なったことにより減価償却費が増加したことから、営業利益は前年同期比7億円減益の172億円。



神鋼神戸発電所からの夜景



アルミ・銅関連事業

3,793 億円
(前年同期比 △15.7%)



飲料缶用アルミ圧延品は堅調も、
その他の分野の需要が
減少しました。

- 飲料缶用アルミ圧延品は堅調。
- 自動車や液晶・半導体関連向けを中心に需要が減少し、圧延品全体の販売量は前期を下回る。
- 銅圧延品の販売量は、電子材料用銅板条の需要が減少し、前期を下回る。
- アルミ鑄鍛造品の売上高も自動車向けを中心に減少し、前期を下回る。
- 販売単価に転嫁される地金価格も下落したため、当事業の売上高は前期比減少。
- 営業損益は、販売数量の減少と地金価格下落による在庫評価影響が収益を押し下げ、前期比488億円減益の268億円の損失。



アルミ缶



機械関連事業

3,310 億円
(前年同期比 +9.5%)



LNG関連機器、
大型圧縮機の受注は
堅調でした。

- LNG関連機器、大型圧縮機の受注は堅調。
- 下半期に入り自動車、石油精製・石油化学業界の設備投資の低迷により、関連製品受注が減少。還元鉄プラントでも案件の一部に計画延期が発生。
- 国内受注高は前期比18.5%減の1,284億円、海外受注高は前期比39.5%の1,101億円。
- 事業全体の受注高は前期比29.8%の2,385億円、受注残高は3,188億円。
- 営業利益は資材材価格高騰により9億円減益の295億円。



非汎用圧縮機



建設機械関連事業

3,330 億円
(前年同期比 △2.0%)



一部地域で需要に
減速が見られました。

- 油圧ショベルの需要は、国内、米国、欧州向けが前期を下回ったものの、中国向けは減速したものの前期を上回る。
- クレーンについては、国内や中東向けが下半期に減少も、北米向けは依然好調に推移。
- 営業利益は資機材価格高騰により115億円減益の112億円。



シティコンシャスクレーン
「PANTHER-X250」



不動産関連事業

371 億円
(前年同期比 △16.2%)



不動産販売が低迷しました。

- 不動産販売の事業環境が悪化し、売上高は減少。
- 営業利益は前期比30億円減益の18億円。



「ジークレフ豊中緑丘レジデンス」

電子材料・
その他の事業

551 億円
(前年同期比 △9.2%)



液晶パネル向け需要が
減少しました。

- 液晶パネル需要の減少により液晶配線膜用ターゲット材の販売量が減少し、売上高が減少。
- 営業利益は、売上高の減少に伴い、前期比50億円減益の31億円。



ターゲット材

ロアームの
弾性応力解析

